

令和7年度 実践研究事業 (そにっとキャンプ・出会いのキャンプ)

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
[後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、
宇陀市教育委員会、京都市教育委員会
[期 日] 令和7年7月12日(土)～7月13日(日)
[対 象 者] 発達に特性がある児童生徒や不登校など集団(学校)生活に困り感のある小学校4年生～中学校1年生の児童生徒とその保護者
[参加/募集] 児童13名・保護者26名(きょうだい含)
[講 師] 吉田昌功氏(五條市立五條小学校)、
浅居春奈氏(宇陀市不登校支援保護者の会 sunny)
黒田美恵氏(そにっとキャンプ親プログラム「もりびと」)
[担 当] 森岡亮平・増田学(企画指導専門職)・菱川裕輝(企画指導専門職付主任)・
大向満(主幹兼事業推進係長)・百田恵美(看護師)千葉博仁(事業推進係員)・
畠山朝浩・西田早織(事業補佐員)



1 趣 旨

曽爾の雄大な自然の中で、初めての人、自然、体験との出会いを楽しみ、年間のキャンプへの期待と展望をもてるよう自分の思いのままに活動するプログラムを中心とする。(森遊び)保護者に対しては、当事者や支援者の講義やワークショップを体験するだけでなく、交流の機会を十分に設定し繋がりを育む。

2 ねらい

- ① 新たな出会い(人、自然、体験)に慣れ、それぞれのペースで楽しむ。
- ② 秋のキャンプに、(家族がいなくても)参加したいという意欲と期待を育む。
- ③ 困り感をもつ保護者が繋がり、時には頼ることの大切さに気付く。

3 プログラム展開

7/12 (土)	10:30 受付	11:00 始まりの会	12:00 昼食	13:00 森の自由遊び	17:00 夕食	17:45 入浴	19:00 星空散歩	21:00 就寝
7/13 (日)	6:30 起床	7:30 朝食	9:00 川遊び	13:00 ふりかえり	14:00 終わりの会	14:30 解散		

4 活動の様子



5 まとめ(子ども及び保護者アンケート・担当者の所感)

- ・子どもからは、「川遊びが楽しかった」「森遊びの焚火で杉の葉をいっぱい集めるのをがんばった」「はじめてすることや、発見がありました」など新しい出会いに慣れ、楽しむ様子がみられた。次回の冒険のキャンプを楽しみにする様子だった。
- ・保護者からは、「親だけでなく、子どもも周りに頼って助けてもらうことが大事だと感じた」「どうしてもしんどいときは、周りに相談するなど頑張りすぎないようにしたいと思いました」「自分だけではないと共感を得ることができ、何よりも思いをはきだす、SOSを出すということが大事なのだと学びました」「元そにっとキャンプ参加者の保護者の話を聞いて、とても勇気がもらえました」「人に頼る勇気がもてるようにしたいです」等、今回のそにっとキャンプのキーワードである「頼ること」に気付いていただいた方が多かった。保護者プログラムの大切さを再確認した。